

車両に空間除菌装置

埼玉観光 バス全15台に搭載へ

埼玉県内で観光バス、路線バスなど計15台を運行する埼玉観光（沼一慶社長）は、乗務員や乗客の感染症防止を目的に、車両に空間除菌装置の搭載を進めている。現在は、6月中には15台全てに搭載する予定。沼社長は「今は

新型コロナウイルスの影響が拡大しているが、冬にはノロウイルス、インフルエンザなどの、感染症への対策がこれまでも必要だった」と、安全性を話す。



観光バス

出入り口に噴霧器を設置

「除菌バス」として利用拡大目指す

埼玉観光は、2016年6月に創業。埼玉県越谷市に本社、東京都板橋区に東京営業所を設け、首都圏出発、着型の観光旅行や教育旅行、ホテルの送迎など、観光需要などに対応してきた。

噴霧器は、九州観光除菌部（大阪市西区）が販売している除菌バス用噴霧器「ハイクロミスト」（本体定価3万8千円）を採用している。使用する除菌水は、インフルエンザやノロウイルス、O-157、各種ブドウ球菌のほか、熱に強い芽胞菌を死滅する効果が基礎除菌実験で実証されている。「カビや食べ物などの臭いを抑え、花粉を不活性化する効果もある」と九州観光除菌部。

今後について沼社長は「新型コロナウイルスの感染拡大が収束した際は、安全安心な『除菌バス』として利用してもらいたい」と話す。